

Series

聞

シリーズ：聞く

く

Vol.5



多可町長
戸田 善規さん

KSks Archeでは、北播磨での市民活動にご理解いただき、支援されている方、あるいは活動されている方々に対し、シリーズ「聞く」と題してインタビューを行っております。

第5回目は、平成18年5月11日に多可町長にお伺い致しました。

■質問 <北播磨の魅力とはどんなところだと思いますか？>

北 播磨というのは、どんなとも言われる事かもしれませんが、金太郎産じゃない、ばらばらなんです。多様性がある。多可町だけ見ても面白い。例えば、旧の八千代町は、都市と農村交流の全国最先端の町です。農水省のオーライ!ニッポン賞で内閣総理大臣賞になった。旧の加美町は総務省のあしたの日本を創る協会のふるさとづくり賞の内閣総理大臣賞に去年なった。旧の中町は酒米、山田錦発祥の地です。白鶴もそうだし、福光屋という純米酒ばかり扱っている最高級の酒屋さんが金沢にあるのですが、そこの一升が2万~3万円するお酒の酒米は中区坂本の山田錦。これは完全有機の肥料で栽培されているからすごいお酒ができています。先日、加藤登紀子さんにお越しいただいて、「日本酒で乾杯の町」宣言をやらせていただいた。多可町を見てこれだけ言える。

その背景をずっととらえていくと、八千代町は敬老の日発祥の地。全国に先がけて、昭和22年に9月15日をお年寄りの日と定めた。それが、38年に老人福祉法ができて、9月15日が敬老の日になりました。という事は、八千代がそのひきがねになった。だから八千代の住民の方は心の中に自分の町は「敬老の日発祥の町」という誇りをもっている。加美の場合は、杉原紙。宮内庁では1月の14・15日にはいつも歌会始があります。そのときに使われる天皇陛下が書かれる紙が杉原紙なのです。これは平成13年から宮内庁に入りました。もちろん杉原紙そのものは奈良時代から使われている1300年の歴史がある紙です。いったん大正末期でとどめたのですが、47年に復活して紙を再度「すく」ようになった。良い紙が技術的にもできるようになったし、自前の楮(コウゾ)を使うと紙が白くなるのがわかった。復活しかけた当初は群馬や高知などからコウゾを買っていました。そうすると紙が茶色くなる。しかし、地場のコウゾで「すく」と白くなるのです。どうしたら地場のコウゾが増えるか?そこで、苗木を各家庭に植えてもらいました。地場のコウゾの供給量を増やしたんです。そういう経過を経て平成13年に宮内庁へ杉原紙が入るようになった。だから自分とてきたコウゾが宮内庁に入っていると言う事は、加美の人からみたら誇りですよ。いろんな魅力がいっぱいありますよ。そうすれば、それよりもっと広い北播磨を見たときにもっともっと魅力があるはず。ただ一番大事なのは自分の故郷の地区にいかにかその誇りを持っていくかということ。今からのまちづくりは誇りづくりですね。

NPO法人に助けてもらわないといけない部分、助けてもらうのではなく一緒にやっていく部分というのはまさに地域の誇りづくりの再発見、魅力の再発見だと思います。中の場合はベルディーホールがあるでしょう。6月10日加山雄三さんが来ますけれども、本当に良い人が来られるんですよ。この間も佐渡裕さんが西宮の県立芸術文化センター以来、初めての演奏会でした。文化の発信ができる施設。規模が小さいけれど、良い施設ですね。そこで文化の発信ができています。私も旧の加美の時にはそういう発想はなかったけれど、ここに来てベルディーの行事に参加させていただいて、自分の文化度が上がるのがわかります。佐渡さんに中学生を教えてもらったのですが、一時間経たないうちにみごとに演奏ができるようになった。そんな文化の行事ができるというのは、

団体会員紹介

Introduction of member of group

ksks Archeの団体会員さんをご紹介します。(登場する順番は不同です。)

このコーナーは、今回が最終回です。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

ふるさときすみの地域活動推進協議会

コバルトブルーの美しい羽をたたんで、じっと水の中を見つめるカワセミを見た。樹々の緑がひととき美しい、静かな午後ひと時であった。きすみのの里には、まだまだ多くの自然が残っている。そしてまた、こうした自然と向き合っている私たちの心が豊かな充実感に満たされるのである。「きすみの土地改良区」が生まれ、平成8年からほ場整備事業が始まった。事業当初にヒメタコウチ・トンガリササノハガイなど、いく種かの希少生物が発見された。早速に私たちはビオトープ水路を作り、これからの保護に務めてきたのである。私は、現代を喪失の時代と位置づけている。確かに経済至上主義を優先させる中で、私たちは様々なものを失おうとしている。数多くの伝統文化を、日本人の心の素質を、そしてまた自然環境もその例外ではないのである。平成13年に「自然再生推進法」が制定され、私たちは、「田園自然環境保全再生支援事業」に取り組むことになった。「ふるさときすみの地域づくり推進協議会」という新しい組織を作り「自然との共生」に向かって様々な試みを企画してきた。私たちの願いは、少しでも多くの仲間を呼び、ともに環境保全への思いを重ねたかったのである。私たちが、平成16年度3回にわたって開催したワークショップも、こうした試みの中のひとつであった。小学生から高齢者まで多くの人々が参加した。きすみのの自然を愛する心、新しいふるさと作りへの意欲がここに結集したのである。これは、「北播磨市民活動支援センター」の協力を得ての意義ある試みであった。地域に投じた画期的な試みであったと思っている。センターからは多くの指導者集団が派遣された。理事長・事務局長はじめ多くの理事の直接参加もあった。新しい時代のはじける快い思いを体験した試みであった。

お金には換えられない。私たちの町は過疎の町で、水が上から下に流れるのと同じように、人って言うのは所得の低いところから所得の多くもらえる所に流れていく。それをとどめる事ができるのは文化なんだと思っています。だから、この施設のこの部分を大事にしたいと思っています。大阪に居ると東京に居ると同じだけのいいものをベルディーホールで見れる。そういう意味では逆に600席・700席という規模って言うのはいいのかもしれない。与えられた状況をいかにプラスにするか。これがまちづくりの秘訣だと私は思います。出会った人いかにまちづくりに参画してもらうのか。役にたっていたらいいか。今までの時代は成長の時代。成長の時代の価値観というのは強弱・管理・依存なんです。こうなさいという中でいかに効率をあげるか、それと依存率という3つの価値観なんです。それでよかった。だから成長した。それが成熟の時代が変わった。そうすると価値観が変わってきますよ。自主・自立・自分の足で立つ事なんですよ。自分で考えて自分の足で立つ。しかし、自分の足で立つ事はみんなしんどい、怖い、ところがそれができると、絶対喜びを生む。共感を求めてこういふ時代になる。だから、言い方はおかしいかもしれませんが、縦型の社会だったんですよ。それが横型に変わってきている。そうなってくると男女共同参画と言っているけどそれは当たり前のことになります。

■質問 <市民活動は今後どのような方向に進んでいく事が大切であるとお考えですか？>

自 分がしっかりしないといけない、やっていけない時代がきているんです。個人が自分の足で立とうとしているところを、そっとサポートさせていただくことが新しい行政です。行政はお金がない時代がきています。ものを新しくあちこちに建てたりできない。今でこそあれこれかの選択の時代ですよ。もうあと15年たったらあれもこれもできない時代。市役所や町役場でも求められる機能が変わってくる。個人の自立をサポートするという新しい役割がそこに求められてくる。という気がします。まさに、市民活動も一緒に。一緒に自立をしていこうというのが市民活動になってくる。行政もそう、民間もそう、NPOもそう。関係なしに自立をしていく、自分がしっかりして、つないでいこうという認識でいいのではないのでしょうか。言葉をかえて言うと例えば年配の方もそう。今から高齢者の人数が増える。あと30年40年したら多可町の場合、高齢化率が限りなく40%に近づくと推測されている。そうすると行政を頼ってもらってもできない、逆にNPO法人を頼ってもらってもできない。その住民どうし高齢者、当事者どうしが横の共助の気持ちの中で一緒に手を組んで支えるということをしなくてはいけません。

■質問 <指定管理者制度を利用している自治体が増えていますが、多可町における指定管理者制度についてお考えを聞かせてください>

指 定管理者制度の導入は私たちが一番遅れている。合併があって、その後一つ一つの施設の検証をして事業評価をしていますが、18年4月初めから指定管理者制度の導入はできなかった。その分掌はまったくできていません。今、はじめて行っているところ。9月1日までに検証を終える。指定管理者でいくのか直営でいくのか見極めをさせていただくという作業にかかっています。実際たくさんの施設がありますけれども、今回の場合は正直に言って指定管理者のところまでできない。なかなか難しい。まして播磨の中で一番北の端の町という中で受け手の数が少ないのが事実。だから事務事業の評価、検証をやらせてもらってどうすれば効率化できるかということにまず焦点をあてて、今までやってきたやりかたを継続する。今しばらくは継続するということが今回の選択になるでしょうか。いつまでも官で抱えざるつもりはない。やっぱり官から民への流れというのは間違いなしにあるので。今は官や民や言っている時代じゃない。例えば青年の家。8月15日に北播では一番大きな花火が加美であります。青年の家から、一番花火が良く見える。ところがその日も普段と同じ安い値段。民間から見たら考えられないですよ。その辺の工夫があつていいと思う。でも、それをやろうと思っても官ではできない。とすればその中に民の感覚を持った人に運営してもらおうというのが当然の流れになる。その時に民だったら何処でもいいのか。私は違うと思う。確かに収益をあげてもらわないと困るけれど、せつかくある組織っていうものをいかに上手く地域に使うかという発想にならないといけないと思う。そうすると例えば青年の家は加美区の豊部があります。豊部を中心とした住民の方が盛り上げていけないかというのが一つ。そこへ地元の人がお袋の味と言う事で食事を提供していく。管理では草刈などは年配の方がしていくということが考えられます。だから、同じサービスでコストを下げるのができたら収益が上がるということも考えられます。コミュニティビジネスという部分も一つの選択になっていく。もしかしたら可能かもしれない。ただノウハウはない。その経営の部分までどこから学ばないといけない。それで、地場の食材を上手に使ったらもっと面白い展開はできないだろうか。発想はやらないといけない。それでなおかつ駄目だった場合はもう辞める事ですね。手立てをつくしてなお駄目だったらその施設は必要ないということ。そこまで踏み切れないといけない時代が来るのかもしれないですね。新しい井戸は掘らない。今まで掘られた井戸をさらえ直す。それがまず基本。だからまずさらえ直す努力が一つの指定管理者の役割かもしれないですね。そこで良い水が出たらいいし。地元は地元の努力をしたらいいし、それで、プラスアルファの知恵が欲しい。その知恵を出してもらいたいのが北播磨市民活動支援センターのメンバーなんです。



■質問 <NPO法人北播磨市民活動支援センターの活動についてご意見を伺います。>

ラ ベンダー(ラベンダー畑を開設するにあたり、支援センターが協力しています。)もそう。コミュニティビジネスという形のおこしかたもそう。それらすべてについての助言をもらえたらありがたいなと思います。私たちはどうしても素人なんですよ。経験がない部分は関わりがしにくい。例えば、どう言ったらいいか、どうサービスを提供したらいいかが見えない。そのあたりのいろいろなアドバイスを受けたらいいですね。それと、単市単町でPRしていったら限界があるんですよ。面々PRすることと同じこと。支援センターは小野中心だというイメージを、もっと全体で面々受けてほしいです。やっておられることを面々見えてほしいです。北播磨はまともなところはまともだったらいけれども、競争するところは競争すればいいと思います。今からの時代は、昔は福沢諭吉の学問のスズメだったんですよ。今の学問のすずめは梅原猛さんの「楽問」のすずめですよ。楽しむ学問のすずめなんです。何をやるにも楽しんでしないとダメ。尊敬する先生の私へのアドバイスは「明日は今日より必ず面白い」。頭をやわらかくして置かれた地域、置かれた状況をいかにプラスにするか、そのための知恵の出し合い。北播磨はものすごく恵まれた地域です。安全・安心を求めた時代になった。不安な時代になったら過去を確実に求めかえす。歴史文化を必ず重視する時代が来る。文化政策の時代。この播磨はいろんな文化がある。そのことを語れる人が欲しいですね。

デイハウス憩い 小野

今年3月より小野市天神町に「デイハウス憩い小野」をオープンいたしました。介護が必要な高齢者・疾病または障害を有する人に対し在宅支援サービスを行う事業所です。

<デイハウス憩い小野>は民家を利用し、みなさんと共に楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。朝は午前9時過ぎにご自宅へお迎えに行き、午後4時過ぎにお送りします。こちらの1日はその日その日に合ったスケジュールです。「今日はいいい天気だな」ドライブにでかけよう。野菜や花の世話をしよう。「何か作りたいな」料理をしよう。織りや手芸をしよう。「ゆっくりしたいわ」それじゃあごろ寝しよう。お話ししよう。そんな風に自由に過ごしていただけたら...と思っています。また、看護師による体温・血圧測定・機能訓練、希望があれば入浴も行います。

家に閉じこもりがちだった方々が季節を味わい、人と触れ合うことによってどんどん表情が良くなっていく姿を見ると、私たちスタッフも元気に、とても嬉しです。共に支えあい生涯を豊かに生きることをスタッフも同じ仲間として目指していこうと思っております。みなさんと一緒に充実した一日が過ごせたら幸せです。

また、夏休みなどは子どもたちと共に織り体験教室も行ってまいります。子どもたちの想像力豊かな作品がいつも楽しみです。

デイハウス小野へのお問い合わせは、0794-63-2172まで。たくさんの方のご利用、お待ちしております。